



タイトル「**2024年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**スポーツ科学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	SSCS2303		
科目名	競技スポーツ習得実習Ⅲ		
担当教員	西川 大輔		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 2		
講義室	1404	単位区分	選
授業形態	実習	単位数	1
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基礎		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 2－A〔日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢〕 地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。 D P 4－F〔探究力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 4－I〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 A 1 グローバル感覚（10％） F 2 課題解決（20％） I 1 理解・分析と読解（70％）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット：能力開発目標ステージとの対応 2 進期期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱでの分析結果を踏まえ、創発能力分析をさらに充実したものとするために、創発能力分析報告書の再検討を行い、学習した内容をさらに深めていきます。これらの分析結果については、授業時間内での分析方法及び分析結果に関する反省的議論を通じて、自身の創発能力の向上に役立てる力を養います。授業形態は実習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード：コツ創発能力、カン創発能力、反省的实践		
授業の趣旨	■副題 種目横断的トレーニングにおける多様性について、役立つ感覚情報（コツ、カン）を抽出し、共有することで自身の競技や指導者に必要な情報を身につける学習を行います。 ■授業の目的 自身が専門とする競技における感覚情報やイメージを、自身の専門種目と同様の競技特性を持つ競技を専門としている学生と共有し、検討することで自身の競技力向上の要因について、質的観点から検討することができることを目的とします。 ■授業のポイント ウエイトトレーニングをはじめとする種目横断的トレーニングを行う際の感覚情報（コツ、カン）を、様々な属性の学生から抽出し、複数の種目条件において、その感覚情報を共通事項		

	および個別性の高い事項として整理し、共有することで自身の活動及び指導に必要な情報を獲得します。										
総合到達目標	■自身が専門とする競技における感覚情報やイメージを、自身の専門種目と同様の競技特性を持つ競技を専門としている学生と共有し、議論する中で自身の競技力向上の要因について、質的観点から理解することができる。 ・競技力向上のために必要な創発能力について、より具体的に説明することができる。（第1回、第2回、第15回） ・自身の競技種目における創発能力の向上の方法と、他者の創発能力の向上の方法について議論し、比較検討を行うことからその内容を整理し自身の競技活動に反映することができる。（第4回、第7回、第10回、第13回） ・競技力向上のために必要な要因について、種目横断的に行われるようなトレーニングを中心に、自身の感覚及び他者の感覚について整理し、その相違などを説明することができる。（第3回、第5回、第6回、第8回、第9回、第11回、第12回、第14回）										
成績評価方法	■分析報告書（40%）：適用ルーブリック：A1・F2・I1 （評価の観点）自身の対象とした種目における、感覚情報を記載する報告書の作成内容の評価を行います。 （フィードバックの方法）報告書内容確認後、典型例を示しながら評価の観点について解説します。 ■プレゼンテーション（60%）：適用ルーブリック：F2・I1 （評価の観点）グループで取り組んだ種目に対し議論を通して整理された内容を発表し、その発表について評価を行います。 （フィードバックの方法）各発表後に講評を行います。										
履修条件	競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。										
履修上の注意点	特にありません。										
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の進め方や評価について説明を行い、授業の概要やその方法について理解し、授業でどのような内容を学ぶかについての準備を行う（F2、I1）。 ③予習（30分） シラバスを読み、授業の流れについて確認しておく。 ④復習（30分） ガイダンスによって説明された内容について再度シラバスを確認し、自身の専門とする競技や興味のある競技についてのトレーニングの実際を確認しておく。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 競技スポーツ習得実習Ⅰ、Ⅱの振り返り ②授業概要 競技スポーツ習得実習Ⅰ、Ⅱで取り扱われた創発能力とはどのような能力であるかについて、自身の創発能力分析報告書を用いて振り返りを行い、その能力について説明することができる（F2、I1）。 ③予習（30分） 競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱで記載した創発能力分析報告書の記載内容を整理しておく。 ④復習（30分） 振り返りを行った結果に基づき今後のトレーニングに関する改善点や課題について確認する。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ 運動の実践を通したコツ、カンの収集① ②授業概要 自身の競技力向上に必要とされる技術について実践を通して学び、その実践内容から自身の創発能力向上のために必要なコツおよびカンを収集し、創発能力分析報告書にまとめることができる（F2、I1）。 ③予習（30分） 自身が実践している技術トレーニングについて整理しておく。 ④復習（30分） 実践を行ったトレーニングに関する効果について確認しておく。 </td></tr> <tr> <td>4</td><td> ①授業テーマ 創発能力分析報告書に基づいた議論① ②授業概要 創発能力分析報告書に記載された内容を他の競技を専門とする学生と用意されたテー </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の進め方や評価について説明を行い、授業の概要やその方法について理解し、授業でどのような内容を学ぶかについての準備を行う（F2、I1）。 ③予習（30分） シラバスを読み、授業の流れについて確認しておく。 ④復習（30分） ガイダンスによって説明された内容について再度シラバスを確認し、自身の専門とする競技や興味のある競技についてのトレーニングの実際を確認しておく。	2	①授業テーマ 競技スポーツ習得実習Ⅰ、Ⅱの振り返り ②授業概要 競技スポーツ習得実習Ⅰ、Ⅱで取り扱われた創発能力とはどのような能力であるかについて、自身の創発能力分析報告書を用いて振り返りを行い、その能力について説明することができる（F2、I1）。 ③予習（30分） 競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱで記載した創発能力分析報告書の記載内容を整理しておく。 ④復習（30分） 振り返りを行った結果に基づき今後のトレーニングに関する改善点や課題について確認する。	3	①授業テーマ 運動の実践を通したコツ、カンの収集① ②授業概要 自身の競技力向上に必要とされる技術について実践を通して学び、その実践内容から自身の創発能力向上のために必要なコツおよびカンを収集し、創発能力分析報告書にまとめることができる（F2、I1）。 ③予習（30分） 自身が実践している技術トレーニングについて整理しておく。 ④復習（30分） 実践を行ったトレーニングに関する効果について確認しておく。	4	①授業テーマ 創発能力分析報告書に基づいた議論① ②授業概要 創発能力分析報告書に記載された内容を他の競技を専門とする学生と用意されたテー
回	内容										
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の進め方や評価について説明を行い、授業の概要やその方法について理解し、授業でどのような内容を学ぶかについての準備を行う（F2、I1）。 ③予習（30分） シラバスを読み、授業の流れについて確認しておく。 ④復習（30分） ガイダンスによって説明された内容について再度シラバスを確認し、自身の専門とする競技や興味のある競技についてのトレーニングの実際を確認しておく。										
2	①授業テーマ 競技スポーツ習得実習Ⅰ、Ⅱの振り返り ②授業概要 競技スポーツ習得実習Ⅰ、Ⅱで取り扱われた創発能力とはどのような能力であるかについて、自身の創発能力分析報告書を用いて振り返りを行い、その能力について説明することができる（F2、I1）。 ③予習（30分） 競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱで記載した創発能力分析報告書の記載内容を整理しておく。 ④復習（30分） 振り返りを行った結果に基づき今後のトレーニングに関する改善点や課題について確認する。										
3	①授業テーマ 運動の実践を通したコツ、カンの収集① ②授業概要 自身の競技力向上に必要とされる技術について実践を通して学び、その実践内容から自身の創発能力向上のために必要なコツおよびカンを収集し、創発能力分析報告書にまとめることができる（F2、I1）。 ③予習（30分） 自身が実践している技術トレーニングについて整理しておく。 ④復習（30分） 実践を行ったトレーニングに関する効果について確認しておく。										
4	①授業テーマ 創発能力分析報告書に基づいた議論① ②授業概要 創発能力分析報告書に記載された内容を他の競技を専門とする学生と用意されたテー										

	マに基づいて、創発能力的観点から議論し、その内容について発表を行うための準備を行う（A 1、F 2、I 1）。 ③予習（30分） 自身の創発能力分析報告書から共有すべき内容を抽出しておく。 ④復習（30分） 発表に必要な情報を収集しておく。
5	①授業テーマ 議論内容の発表① ②授業概要 創発能力分析報告書に記載された内容を基に行われた議論をまとめ、発表を行う。またその発表について自身のコツやカンとの比較を行うことができる（F 2、I 1）。また、自身のグループ、他のグループともに評価を行うことができる。 ③予習（30分） 前回までの議論に基づいて自身の技術に対するカン、コツを再考し整理しておく。 ④復習（30分） 発表された他のグループの発表内容について整理し、自身のトレーニング時にその内容を反映し、試行しておく。
6	①授業テーマ 運動の実践を通したコツ、カンの収集② ②授業概要 種目横断的に必要とされるトレーニングについて実践を通して学び、その実践内容から自身の創発能力向上のために必要なコツおよびカンを収集し、創発能力分析報告書にまとめることができる（F 2、I 1）。 ③予習（30分） 自身が実践している種目横断的に必要とされるトレーニングについて整理しておく。 ④復習（30分） 実践を行ったトレーニングに関する効果について確認しておく。
7	①授業テーマ 創発能力分析報告書に基づいた議論② ②授業概要 創発能力分析報告書に記載された内容を他の競技を専門とする学生と用意されたテーマに基づいて、創発能力的観点から議論し、その内容について発表を行うための準備を行う（A 1、F 2、I 1）。 ③予習（30分） 自身の創発能力分析報告書から共有すべき内容を抽出しておく。 ④復習（30分） 発表に必要な情報を収集しておく。
8	①授業テーマ 議論内容の発表② ②授業概要 創発能力分析報告書に記載された内容を基に行われた議論をまとめ、発表を行う。またその発表について自身のコツやカンとの比較を行うことができる（F 2、I 1）。また、自身のグループ、他のグループともに評価を行うことができる。 ③予習（30分） 前回までの議論に基づいて自身の技術に対するカン、コツを再考し整理しておく。 ④復習（30分） 発表された他のグループの発表内容について整理し、自身のトレーニング時にその内容を反映し、試行しておく。
9	①授業テーマ 運動の実践を通したコツ、カンの収集③ ②授業概要 自身の競技力向上に必要とされる技術について実践を通して学び、その実践内容から自身の創発能力向上のために必要なコツおよびカンを収集し、創発能力分析報告書にまとめることができる（F 2、I 1）。 ③予習（30分） 自身が実践している技術トレーニングについて整理しておく。 ④復習（30分） 実践を行ったトレーニングに関する効果について確認しておく。
10	①授業テーマ 創発能力分析報告書に基づいた議論③ ②授業概要 創発能力分析報告書に記載された内容を他の競技を専門とする学生と用意されたテ

		マに基づいて、創発能力的観点から議論し、その内容について発表を行うための準備を行う（A 1、F 2、I 1）。 ③予習（30分） 自身の創発能力分析報告書から共有すべき内容を抽出しておく。 ④復習（30分） 発表に必要な情報を収集しておく。
11		①授業テーマ 議論内容の発表③ ②授業概要 創発能力分析報告書に記載された内容を基に行われた議論をまとめ、発表を行う。またその発表について自身のコツやカンとの比較を行うことができる（F 2、I 1）。また、自身のグループ、他のグループともに評価を行うことができる。 ③予習（30分） 前回までの議論に基づいて自身の技術に対するカン、コツを再考し整理しておく。 ④復習（30分） 発表された他のグループの発表内容について整理し、自身のトレーニング時にその内容を反映し、試行しておく。
12		①授業テーマ 運動の実践を通じたコツ、カンの収集④ ②授業概要 自身の競技力向上に必要なとされる技術について実践を通して学び、その実践内容から自身の創発能力向上のために必要なコツおよびカンを収集し、創発能力分析報告書にまとめることができる（F 2、I 1）。 ③予習（30分） 自身が実践している技術トレーニングについて整理しておく。 ④復習（30分） 実践を行ったトレーニングに関する効果について確認しておく。
13		①授業テーマ 創発能力分析報告書に基づいた議論④ ②授業概要 創発能力分析報告書に記載された内容を他の競技を専門とする学生と用意されたテーマに基づいて、創発能力的観点から議論し、その内容について発表を行うための準備を行う（A 1、F 2、I 1）。 ③予習（30分） 自身の創発能力分析報告書から共有すべき内容を抽出しておく。 ④復習（30分） 発表に必要な情報を収集しておく。
14		①授業テーマ 議論内容の発表④ ②授業概要 創発能力分析報告書に記載された内容を基に行われた議論をまとめ、発表を行う。またその発表について自身のコツやカンとの比較を行うことができる（F 2、I 1）。また、自身のグループ、他のグループともに評価を行うことができる。 ③予習（30分） 前回までの議論に基づいて自身の技術に対するカン、コツを再考し整理しておく。 ④復習（30分） 発表された他のグループの発表内容について整理し、自身のトレーニング時にその内容を反映し、試行しておく。
15		①授業テーマ 競技スポーツ習得実習Ⅲのまとめ ②授業概要 競技スポーツ習得実習Ⅲで学んだ内容についてまとめを行うことができる（A 1、F 2、I 1）。 ③予習（30分） これまでの創発能力分析報告書を概観し自身の感覚等を明確にしておく。 ④復習（30分） まとめられた創発能力分析報告書について他者と情報を共有し自身のトレーニング時にその内容を反映する。
関連科目		競技スポーツ習得実習Ⅰ [SSCS1303]、競技スポーツ習得実習Ⅱ [SSCS1304]
教科書		指定はありません。

参考書・参考URL	指定はありません。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 授業時に連絡します。 ■オフィスアワー 授業時に連絡します。
研究比率	



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.